

助成金情報

他にも多くの助成金やセミナーがあります。詳しくは、メイトム宗像のホームページ⇒その他リンク一覧をご覧ください。窓口での相談も受け付けています。

メイトム宗像

検索

助成金 福祉・まちづくり、スポーツ、環境、子どもなど 20分野

- 第12回九州ろうきん「NPO助成」
 - 【対象】 営利を目的とせず、九州ろうきんの営業エリア内に主たる事務所を設け活動する団体（NPO法人・ボランティアグループ・市民活動団体など）
 - 【申込締切】 6月12日（金）
 - 【助成金額】 上限なし
 - 【問合せ】 九州ろうきん福岡県本部「NPO助成」係
TEL：092-714-7143

助成金 保健・医療・福祉分野

- 地域支え合い活動 助成プログラム
 - 【対象】 市民参加型を基本としたボランティア団体・NPO等の非営利団体が行う活動
 - 【申込締切】 6月30日（火）※必着
 - 【助成金額】 上限額 15万円
 - 【問合せ】 一般社団法人 全国老人給食協会事務局
TEL：03-5426-2547 FAX：03-5426-2548

助成金 子どもの健全育成分野

- 第46回博報賞
 - 【対象】 小・中学生を中心とする児童生徒を対象とした教育活動実践者
 - 【申込締切】 6月30日（火）※必着
 - 【助成金額】 1件あたりの上限額 100万円
 - 【問合せ】 公益財団法人 博報財団
TEL：03-5570-5008 FAX：03-5570-5016

助成金 保健・医療・福祉、社会教育、学術・文化・芸術・スポーツ、災害救援分野

- 太陽生命厚生財団
 - 【対象】 ボランティアグループ等が行う事業への助成
 - 【申込締切】 6月30日（火）※必着
 - 【助成金額】 1件あたりの上限額 50万円
 - 【問合せ】 公益財団法人 太陽生命厚生財団 事務局
TEL・FAX：03-6674-1217

助成金 学術・文化・芸術・スポーツ、子どもの健全育成分野

- ライフスポーツ財団 一般公募助成金
 - 【対象】 子どもスポーツ活動、地域スポーツ活動及び子ども文化活動を推進するための組織団体
 - 【申込締切】 7月31日（金）※必着
 - 【助成金額】 1件あたりの上限額 50万円
 - 【問合せ】 公益財団法人 ライフスポーツ財団事務局
TEL：06-6170-9886 FAX：06-6170-9887

助成金 学術・文化・芸術・スポーツ、子どもの健全育成分野など

- 平成27年度子どもゆめ基金助成金／子どもの体験活動・読書活動（二次募集）
 - 【対象】 子どもの健全な育成を目的に子どもの体験活動や読書活動の振興に取り組む団体
 - 【申込締切】 6月24日（水）※郵送申請 / 26日（金）※電子申請
 - 【助成金額】 1件あたりの上限額 50万円
 - 【問合せ】 子どもゆめ基金 TEL：03-5790-8117, 8118
子どもゆめ基金フリーダイヤル
TEL：0120-579-081 FAX：03-6407-7720

市民活動・NPO・ボランティアの実践者を対象とした情報紙

ふらぐ 多くの人たちへ届けます

「ふらぐ」は、むなかた市民フォーラムが宗像市市民サービス協働化提案制度において、宗像市と協働で編集・発行しています。



編集委員長
雪松 直子

今のお気に入りにはアロマ配合のクリーム。ラベンダーの香りでスツと心が軽くなります。気持ちが落ち着くと、楽しいことに目が向きます。ふらぐをずっと手元に置いてもらえようものに成長させたいです。



編集委員
立花 祐平

マイブームは、体づくりです。最近宗像に新しくできたボルダリングジムにも通おうかなと思ってます。今年の24時間EKIDENも頑張ります！ふらぐで目からのウロコの情報発信します。



編集委員
森 結花

バドミントンに夢中♡シャトルー筋、スマッシュ一線、Aクラスまであと一勝。試合も人生も臨機応変に頑張ってます！ふらぐは、皆さんの活動を応援します！



編集委員
仲西 浩一

最近バイオリンを始めました。が、全く音感のないことに気づきました。情熱大陸を弾くのが目標ですが道のりは険しいです。ふらぐを読むことで、何か活動のヒントがあるような情報紙を目指します。

皆さんからの情報を募集!! 市民活動のお知らせや活動の様子などをお寄せください。
munakata@mcforum.jp 「むなかた市民フォーラム」まで

「ふらぐ」は、むなかた市民フォーラムが宗像市市民サービス協働化提案制度において、宗像市と協働で編集・発行しています。

発行/宗像市市民活動・NPOボランティアセンター 住所/福岡県宗像市久原180 メイトム宗像 電話/0940(36)0311 FAX/0940(37)4101
編集/むなかた市民フォーラム URL/http://kouryuukan.com E-mail/meitomu@city.munakata.fukuoka.jp
窓口時間/8:30～17:00 休日/土・日・祝日

むなかた NPO ボランティア情報紙

ふらぐ

テーマ

「伝わる」

伝わる広報を考えよう

2015年5月発行

「ふらぐ」は、NPO・ボランティア・市民活動の実践者を対象とした情報紙として、活動に役立つ情報をお伝えします。今回は「伝わる」がテーマ。広報をするときに「どう伝えと、伝わるのか」を考えてみました。

小学6年生がわかる広報紙

「宗像市コミュニティ広報コンクール」最優秀賞を3年連続受賞した赤間西コミュニティ広報紙「ほのぼの赤間西」（年2回発行）。広報委員にそのこだわりを聞きました。



赤間西地区
コミュニティ運営協議会

1 広報委員の頭にはアンテナが！

広報委員は好奇心旺盛で経験豊富な先鋭揃い。情報が命の広報紙には、多くのアンテナと、積極的に動ける足が必要です。記事は地域で活動している「人」を中心に構成しています。時間と労力を惜しまず足を使って情報収集し、地域の力を素直に文章にしていきます。



取材の様子



赤間西コミュニティのキャラクター
「あかひい(左)」と「にしまる(右)」

2 伝わるコツは「いいかっこうをするな！」

「字は少なく！見やすく！やさしい言葉で！小学6年生が見てもわかる文章に！」と話を元編集長の松永寛二さん。伝えたいおもしろい文章が長くなり、経験が豊富である人ほど、かっこいい文章にしようと言葉が難しくながちです。「伝えたい」思いを編集会議で「伝わる」よう変換していく。遠慮なく意見を出し合い、文章を削ぎ落とす。



最後にキャッチコピーやレイアウト、校正などそれぞれの特技を活かし磨きあげていきます。「難しい内容だから、わかりやすく伝えたい」とカルタを取り入れるなど、アイデアの光る紙面が完成します。

取材に訪れると、7人の広報委員が出迎えてくれました。なんと以前の広報委員も集まってくれたのです。サプライズや楽しいことが大好き！というコミュニティ運営協議会事務局高瀬清美さんのおかげで、取材は同窓会のようにになりました。広報の学習会があれば必ず参加し、最新の情報を得て技術を高めていきます。「書くときはプロとして、読むときは地域の小学生の目線」と文章の読み合わせを行う工夫など、良いものをどんどん取り入れていく姿勢が、メンバーが入れ替わっても高い広報力維持につながっています。

問合せ 赤間西地区コミュニティ運営協議会 TEL：0940-38-9506

ちょっとお役立ち情報

少しの工夫で 伝わる広報

伝えたい相手に届くコツ

まず、広報は何のためにするのかを明確にする必要があります。「5W1H」は、「なぜ、だれに」などを漏れなく整理し考えるのに役立つ方法です。

広報の方法は、紙面、インターネット、セミナー、イベント、ロコミまで様々。伝えたい相手に適した方法で届けることが重要です。

● 広報の種類

インターネット	ホームページ、SNS(Facebook)、動画 など	費用対効果高い
メール	メールマガジン、メルマガ など	特定に配信可能
紙	新聞・雑誌、チラシ・ポスター、会報、報告書、手紙、FAX など	幅広く使える
放送	テレビ、ラジオ など	インパクト大
その他	イベント、ロコミ、グッズ、募金 など	実は使える

お金がかからないインターネット活用

インターネットを活用すると、広報費をおさえることができます。「ブログ」は日記を書くように更新でき、書いた記事をカテゴリ毎に検索をすることが容易で、情報を蓄えることに向いています(情報ストック型)。「Facebook」は、双方向のコミュニケーションができることが強みです。個人ページ以外に団体のページを作ることでもでき、ホームページの代わりに利用する団体もあります。情報発信が容易で、発信した情報をいろんな人がシェアすると、シェアした人の友達にまで情報を届けることができます。常に最新情報が表示されるため、古い情報は流れてしまう特徴もあります(情報フロー型)。他にも「YouTube」を使い動画でわかりやすく活動を伝えるなどインターネットを活用する方法はたくさんあります。

募集

広報相談でスキルアップを!

市民活動・NPOボランティアセンターでは、様々な相談を受け付けています。広報について、もっと詳しく聞いてみたい、私たちの団体はどのように広報するのがよいかという悩みをお持ちの人、まずは気軽にお問合せください。専門のスタッフが団体の状況を聞きとり、効果的な方法を提案します。

予約・問合せ

市民活動・NPOボランティアセンター TEL:0940-36-0311

広報力を身に付ける

多くの市民活動団体は広告宣伝に費用をかけることができません。そのため効果的な活動をするには、それぞれの団体が広報力を身に付ける必要があります。今回は少しの工夫で伝わるコツを考えてみました。



例えば、高齢者に伝える場合、紙面にすると馴染みがあります。若者に伝える場合、インターネットを使ってみるなど、伝えたい相手によって効果のある手段は異なることを押さえましょう。

市民活動団体が広報をする目的は、団体の活動が発展していくためです。広報を通して活動への共感が広がり、課題解決などを実現できるかが重要になります。



Facebook でブログの内容を発信したり、ホームページを紹介したり、それぞれの特徴あるツールを合わせて使うとインターネットの広報効果は何倍にもなります。

● 無料で使えるインターネットツール

項目	難易度	効果	種類
ブログ	易しい	高い	情報ストック型
Facebook	易しい	とても高い	情報フロー型
ホームページ	普通	普通	情報ストック型



広報相談日

5/23(土) 6/27(土)
7/18(土) 8/29(土)
9/19(土)

10時~11時~13時~
14時~15時~16時~

●個別相談 (1団体約1時間)
●予約制 ●無料



伝わる広報を考える

思わず参加したくなるワクワクを発信する

久留米を拠点に筑後川の清掃活動を主催する「Good News」。毎月開催している活動には若者を中心に100人規模の人が集まります。一体なぜそんなに人が集まってくるのか。代表の中島重人さんに広報のヒケツを聞きました。

ごみ拾いを楽しくオシャレに魅せる

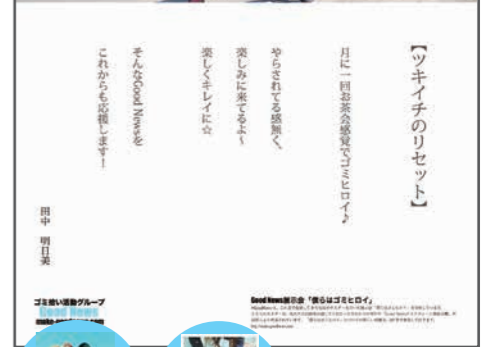
「Good News」の活動はユニークで楽しい。毎月筑後川で行っている清掃活動は「定例リパークリーン」となんともかっこいい名称がつけられている。「敷居が高い清掃ボランティアの活動に、いかに参加したくなるかにこだわっています。そのため、活動が楽しく思えるようなネーミングや体験の企画を考え、活動へ参加するハードルを低くすることを意識しています」

そう語るのには「Good News」代表の中島重人さん。筑後川を楽しみながら活動している参加者ひとりひとりの思いを表現する「僕らはゴミヒロイ」ポスターや活動を紹介するオリジナルの動画



定例リパークリーンの様子。楽しそうに会話する参加者。

などを制作し、清掃活動というどこにもある単純な活動を独自でユニークなものにしている。活動ポスターは100種類を目標に、現在も制作を続けている。



「僕らはゴミヒロイ」のポスター。参加者ひとりひとりの思いが描かれている。

「E」よりも「ニ」

海や河川での清掃活動時の写真でよく見かけるのは、放置されているごみそのものや頑張っている人の写真など。しかし、「Good News」はとにかく笑顔で楽しそうな人の写真が多

い。「写真にはこだわっています。ゴミばかり写して筑後川のマイナスイメージを発信していくよりも、素敵なお写真にするために、楽しみながら活動している皆の笑顔を送信していくことの方が未来志向になれる、まさしく「Good News」だと思ってる」

当初は知り合いのカメラマンに撮影してもらっていたそうだが、最近は一一眼レフを購入し自分でも撮っているそう。活動後は集合写真も撮影し、フェイスブックやホームページ上に掲載。フェイスブックでは、参加者のページにも写真が掲載されるタグ付け機能を活用。

「許可をもらった参加者をタグ付けすることで、その参加者の友人にまで活動を知ってもらえます。すると次回はその友人が活動に参加するなどロコミで活動が広がっていくんです」

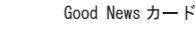
● profile

Nakashima Shigehito



中島重人さん
なかしま・しげひと ●久留米市出身
「Good News」を久留米大学卒業後に仲間3人で設立し代表を務める。平日は企業に勤め、週末はボランティアと子育てを楽しむ3児のパパ。

「今後は、久留米の街のいたる場所ので使えるように、この取り組みを普及させていきたい」と中島さんの夢は膨らむ。



Good News カード

Good News

2008年に久留米大学卒業生3人で設立。現在は20人のスタッフで活動。定例リパークリーン、筑後川での自然体験活動、Good News カードなど、筑後川をフィールドにユニークな活動を展開している。

